

### CONTENTS 目次

- 2 特集 もっと好きになる“長峰公園”ほか
- 8 やいた応援大使・図書館へGO！ほか
- 10 地域あれこれレポート ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 14 はつつ通信
- 16 市からのお知らせ
- 32 ゆかりびと・編集後記



## 特集 もっと好きになる“長峰公園”

年間を通じてたくさんの方が訪れ、日本の都市公園100選にもなっている矢板市のセントラルパーク「長峰公園」。今後も好評のライトアップやイベントなどが盛りだくさんです。四季折々、昼も夜も、訪れるたびに違った表情を見せてくれるこの場所で、あなたらしいひとときを見つけませんか。楽しみ方はあなた次第。心弾む季節、長峰公園に出かけよう！

### せせらぎ水路、始まりました

大好評につき、例年より早い4月25日からスタート。期間を延長し、9月末まで利用できます。たくさん水遊びをして、矢板の夏を楽しもう。

期間／9月27日（日）まで

時間／9：00～16：30

問い合わせ／

都市整備課 ☎（43）6213



### ライトアップが通年に

桜やツツジの時期に開催していたライトアップですが、より多くの方にご利用いただくため、1年を通して実施します。仕事後のウォーキングや犬の散歩など、健康づくりのためにもぜひご利用ください。

点灯時間／日没後2時間程度

問い合わせ／都市整備課 ☎（43）6213

### 5月9日はつつじまつり

公園を満喫できる手作り感あふれるマルシェ型イベントを開催します。北関東有数のツツジの名所で、満開のツツジを堪能しよう。

日時／5月9日（土）16：00～20：00

後援／矢板市

主催・問い合わせ／

観光協会 ☎（47）4252



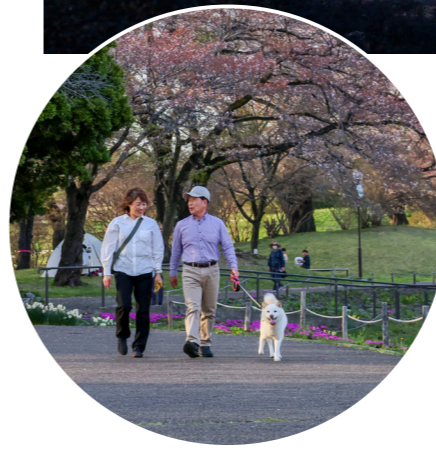
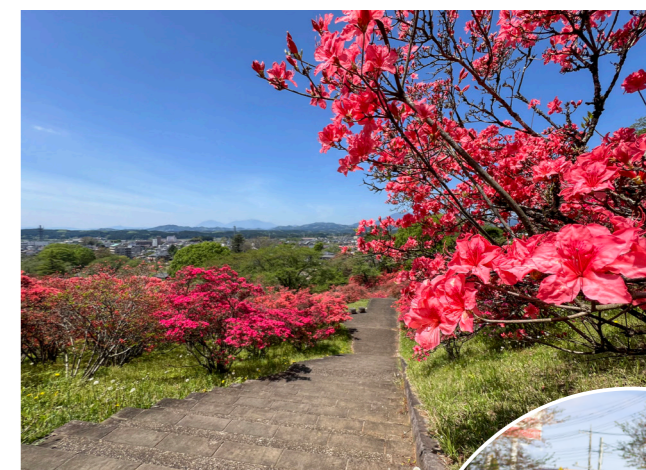
### COVER 表紙の写真



表紙は、昨年の観光写真コンテストの入賞作品を使用し、5月の長峰公園をイメージして作成しました。取材で、はじける笑顔を見せてくれたのは4歳のななみちゃん。お兄ちゃんとアイスを食べたり自転車に乗ったり、元気に走り回る姿にエネルギーをいただきました。

### POPULATION 人口（4月1日現在）

29,505人（△100）	出生	8人
男 14,741人（△43）	死亡	42人
女 14,764人（△57）	転入	122人
13,352世帯（13）	転出	188人
（ ）内は3月1日との比較		
△は減		
*住民基本台帳をもとに算出		



♡♡ ペンキも増えたよ！



# 公園に刻まれる矢板の歴史

皆さんは公園内に、17基もの石碑があることをご存知ですか。句碑や歌碑、そして顕彰碑などがあり、矢板の歴史と共に歩んできた公園であることが分かります。その中でも、市にゆかりのある石碑をいくつかご紹介します。

問い合わせ／生涯学習課 ☎(43)6218



**荒井 英一先生顕彰碑**  
(平成3年11月建立)

矢板市出身で日本を代表する作曲家・荒井 英一先生の碑。杉山 吉伸画伯によるデザインで、作曲家にふさわしいグランドピアノをかたどったもの。鍵盤も彫られていて、碑の土台には愛用していた指揮棒が納められています。

大正15年2月14日に住吉荘本店(現在のウェリースミヨシの本店)の長男として生まれ、昭和20年NHKのど自慢大会に合格、声楽の勉強に励み、後に作曲家に転じました。昭和39年には「あゝ上野駅」が大ヒットし、作曲家としての地位を不動のものにしました。

その後、3,000曲にも及ぶ歌を発表し、昭和60年には全国大衆音楽家協会の会長に就任されました。「矢板市の歌」「矢板音頭」など市にまつわる曲も多数手掛けられた先生でしたが、平成2年11月に64歳の若さで亡くなりました。



**上野 千里先生詩碑**  
(昭和50年晩秋建立)

現在の本通りにあった上野病院・上野 万里さんはお産の神様として、また貧しい人には無料で診察するなど、大変慕われていた先生でした。その一人息子である千里さんは慈恵医科大学を卒業後入隊し、海軍軍医中佐となり、アジア各地の戦地で日本兵や捕虜となった外国人兵士の治療に当たっていました。その後昭和21年に復員、休む間もなく地域住民の治療に専念していました。しかし、翌年2月、濡れ衣を着せられアメリカ軍に連行。昭和24年3月31日に処刑され、突然帰らぬ人となってしまいました。この碑には、「子供たちのために」というタイトルで人道愛に満ちあふれた千里先生の詩が刻まれています。



**川俣 瑞穂先生句碑**  
(昭和63年7月建立)

「母の日のつつじの雨となりけり」市制30周年を記念して、瑞穂俳句会によって建立。雨降る長峰公園で、亡き母を慕う川俣先生の切実な想いが込められています。仕事の傍ら俳句や俳画の指導にあたり、市の文化向上に尽くされました。平成6年8月に館山市でご逝去。



**野口 雨情歌碑**  
(昭和53年11月建立)

市制20周年の時に建てられた詩人・野口 雨情の歌碑。昭和11年、故高柳元市長らの招待で長峰公園を訪れ、その美しさに胸を打たれ詠まれたもので、雨情が矢板を詠んだ唯一の作品とされています。



**忠魂碑・軍馬之碑・赤瀬大尉之碑など**

慰霊塔の近くには、9基の石碑が並んでいて、この中に矢板市の礎を築いた矢板 武に関する碑があります。1つは、武の祖母である美譽の功績を称えたもの、もう1つは武の教育係だった矢板 竹松翁の碑です。



**坂巻 美譽刀自壽蔵碑**  
(大正11年12月13日建立)

「刀自」とは老女の尊称、そして「壽蔵」とは、生前に作っておくお墓のことです。武は3歳の時に祖父(美譽の夫)を、8歳の時に母、10歳の時に父を亡くしています。このため、両親に代わって武を養育したのが美譽でした。武はその恩に報いるためにこの碑を造ることを決意。裏面に刻まれているように、200人以上の寄付者を得てこの碑が完成しました。



**矢板 竹松翁碑**  
(昭和5年3月建立)

矢板 竹松はもともと大村 新兵衛という黒田藩士で、天保11年(1840年)に現在の福岡に生まれました。27歳で京都に上がり、4年後に全国に旅に出て矢板宿問屋坂巻家に立ち寄りました。美譽の強い希望で坂巻家に住むことになり、武の教育係を引き受けました。この出会いがその後の武の運命を大きく変えるのでした。明治に入ってから新兵衛は矢板 竹松と改名、後に矢板小学校の初代校長に就任しました。



**弓道師範 中村 光徳の碑**  
(昭和10年3月建立)

中村 光徳は、安政5年(1858年)に矢板村の旧家奈良屋に生まれました。明治初めの頃、宇都宮藩士の星野 忠徳の門で修行を積み、日置流雪荷派の師範となり、1,000人余りの門弟がいたと言われています。毎年春になると、長峰公園で弓道大会が開催され、大変なぎわいを見せたそうです。

昭和7年に75歳で亡くなりましたが、この碑はその三周年に建てられたものです。



矢板の歴史、再発見だね!

大正・昭和・平成と時代を超えて、矢板の歩みを見守ってきた長峰公園。私たちも、長峰公園とたくさんの思い出を育みながら、大切に未来へつないでいきます。

# 令和7年度 地域おこし協力隊×集落支援員×YAD 活動報告会

地域の課題解決に向け、それぞれのテーマで活動する地域おこし協力隊。今年集落支援員や高校生団体「YAD」も加え、活動報告会を開催しました。

## 行政と地域の架け橋に

行政と連携しながら集落を巡回し、聞き取りを通して地域の状況把握と関係づくりに取り組んできました。区長訪問や行事への参加を重ねる中で信頼関係が生まれ、課題解決やイベント実施にもつながっています。また、TAKIBI やシェアキッチンなど、交流の場づくりにも関わってきました。

今後は情報の整理・見える化を進め、誰もが地域の情報に触れられる環境づくりを目指していきます。

集落支援員  
遠藤さん・長田さん・三浦さん

## スポーツで広がる交流の輪

移住定住促進のため、移住フェアへの参加、移住者交流会「やいたび」やオンラインセミナーなどの実施により、相談件数は前年比1.7倍に増やすことができました。

矢板中央高校と連携した大会を開催するなど、スポーツによる交流人口の創出にも取り組んだほか、YADの運営補助や県内協力隊との連携なども行っています。多くの方の支えに感謝し、これからもご縁を大切に活動していきたいです。



移住定住促進・  
交流関係人口の拡大創出  
坂和 紀明 隊員



## つながりを大切に、次の挑戦へ

地域住民との関係構築と交流の場づくり、ゲストハウス開業に向けた拠点形成を軸に活動しています。アウトブット会・語学交流カフェ・月1マルシェ「よりみち市」の開催などを通して継続的なつながりを広げたほか、ふるさとまつりではレンタル浴衣・蓄光ペイントワークショップなどの企画運営やSNS発信を行うなど、新たな挑戦をしてきました。令和8年度はゲストハウス開業を目指して、これまで広げてきたつながりを大切

に、矢板がもっとおもしろくなるようなきっかけを作っていきたいです。



矢板ふるさと支援センター  
TAKIBI センター長  
福田 麗 隊員



## 林業の道へ、新たな一歩

林業に携わりたいという思いから58歳で前職を退職し、令和7年8月に着任しました。林道や市有林、里山の整備に取り組み、研修で技術を学びながら経験を重ねています。

また、レーザー彫刻による木製品の制作・普及にも取り組み、ワークショップを通して子どもたちが木に触れる機会を作りました。今後も自然のすばらしさを伝えていけるよう活動していきます。



レーザー彫刻による木製品制作  
高柳 直彦 隊員



アロマ講座・木製イヤリング制作  
高柳 雅子 隊員

人がつながる。  
矢板はもっとおもしろくなる。

## 食で伝える地域の魅力



食を通じた地域活性化と、空き家・空き店舗の実態把握、TAKIBI 運営を軸に活動しています。令和7年度は市内の飲食店や農家へのあいさつ回りでつながりを築き、「よりみち市」や「やいたび」では昼食提供も行いました。

今後はSNSでの発信やシェアキッチンの活用、グルメイベントの開催などを通して、矢板の「おいしい」を広げ、開業に向けて取り組んでいきます。

食を通じた地域活性化  
鈴木 琢弥 隊員



## 高校生パワーで矢板を元気に！



市内3校の高校生によって平成30年に結成されたYADは、「矢板市を全方向（all directions）から盛り上げたい」という思いのもと、地域の活性化と高校生の居場所づくりを目的に活動しています。令和7年度は高校生カフェや夏祭り出店、YADフェス、市内を巡るバスツアーなどを企画・運営しました。地域の皆さんの協力に感謝し、今後も元気を還元できる活動を目指します。

高校生団体  
YAD (Yaita All Directions)



## 矢板の自然で広げるつながり

人と自然が好きで地域おこし協力隊員となり、森林振興のため林道の整備や木製品の製造・普及に取り組んでいます。これまで、木製イヤリングの制作やイベント出店、アロマ講座の開催を通して自然の魅力を伝えてきました。

今後は、アロマや木工を通じて人がつながる場づくりを目指し、起業に向けて準備を進めていきます。



当日の様子は  
こちらから。